

※実施方法については、「実施要綱」別紙３「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）			実施計画					
講義・演習（実習）			カリキュラム名・時間数			実施内容		
1 職務の理解	6	時間	1 職務の理解	6	時間	1 職務の理解		
				通学	通信	合計		
(1) 多様なサービスの理解			(1) 同左	1	0	1	(1) 介護保険による居宅サービス、居宅介護支援、施設サービス、地域密着型サービス、介護保険外サービス、講義と演習を一体的に実施	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解			(2) 同左	5	0	5	(2) 介護サービスを提供する現場の実際、介護サービスの提供に至るまでの流れ、チームアプローチ、講義と演習を一体的に実施	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9	時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9	時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援		
				通学	通信	合計		
(1) 人権と尊厳を支える介護			(1) 同左	1.5	4.5	6	(1) 人権と尊厳の保持、ICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、講義と演習を一体的に実施	
(2) 自立に向けた介護			(2) 同左	0	3	3	(2) 自立支援、介護予防	
3 介護の基本	6	時間	3 介護の基本	6	時間	3 介護の基本		
				通学	通信	合計		
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携			(1) 同左	0	1	1	(1) 介護環境の特徴の理解、介護の専門性、介護実践における連携	
(2) 介護職の職業倫理			(2) 同左	3	0	3	(2) 専門職の倫理の定義、介護の倫理、利用者や家族とかわる際の留意点、講義と演習を一体的に実施	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント			(3) 同左	0	1	1	(3) 介護における安全の確保、感染対策	
(4) 介護職の安全			(4) 同左	0	1	1	(4) 介護職の心身の健康管理、感染予防対策	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9	時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9	時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
				通学	通信	合計		
(1) 介護保険制度			(1) 同左	1	2.5	3.5	(1) 介護保険制度創設の背景および目的、動向、介護保険制度のしくみの基礎的理解、財源、組織・団体の機能と役割、講義と演習を一体的に実施	
(2) 障害福祉制度及びその他制度			(2) 同左	0.5	2	2.5	(2) 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援法の基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要、講義と演習を一体的に実施	
(3) 医療との連携とリハビリテーション			(3) 同左	0	3	3	(3) 医行為と介護、訪問介護、看護と介護の役割と連携、リハビリテーションの理念	
5 介護におけるコミュニケーション技術	6	時間	5 介護におけるコミュニケーション技術	6	時間	5 介護におけるコミュニケーション技術		
				通学	通信	合計		
(1) 介護におけるコミュニケーション			(1) 同左	3	0	3	(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、役割、目的、手技・技法、講義と演習を一体的に実施	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション			(2) 同左	0	3	3	(2) チームコミュニケーションの重要性、記録における情報の共有化、報告・連絡・相談、カンファレンス	
6 老化の理解	6	時間	6 老化の理解	6	時間	6 老化の理解		
				通学	通信	合計		
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常			(1) 同左	3	0	3	(1) 老化と老年期、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響、講義と演習を一体的に実施	
(2) 高齢者と健康			(2) 同左	0	3	3	(2) 高齢者の症状・疾患の特徴、高齢者に多い症状、高齢者に多い疾患と日常生活上の留意点	
7 認知症の理解	6	時間	7 認知症の理解	6	時間	7 認知症の理解		
				通学	通信	合計		
(1) 認知症を取り巻く状況			(1) 同左	1	0	1	(1) 認知症ケアの背景と基本的視点、講義と演習を一体的に実施	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理			(2) 同左	0	2	2	(2) 認知症の概念、認知症の原因疾患とケアのポイント、認知症の治療と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活			(3) 同左	2	0	2	(3) 認知症の生活障害、心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応、講義と演習を一体的に実施	
(4) 家族への支援			(4) 同左	0	1	1	(4) 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）	

8 障害の理解 3 時間				8 障害の理解 3 時間				8 障害の理解			
					通学	通信	合計				
	(1) 障害の基礎的理解			(1) 同左	0	0.5	0.5	(1) 障害の概念とICF、障害福祉の基本理念			
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識			(2) 同左	0	0.5	0.5	(2) 身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心身の機能障害			
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解			(3) 同左	1.5	0.5	2	(3) 障害の理解と障害の受容支援、介護負担の軽減、講義と演習を一体的に実施			
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 こころとからだのしくみと生活支援技術			
ア 基本知識の学習 10～13時間				ア 基本知識の学習 12 時間				ア 基本知識の学習			
					通学	通信	合計				
	(1) 介護の基本的な考え方			(1) 同左	1	1	2	(1) 理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護、講義と演習を一体的に実施			
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解			(2) 同左	1.5	2.5	4	(2) 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害の不応状態と緩和する心理、講義と演習を一体的に実施			
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解			(3) 同左	5	1	6	(3) 人体の各部の名称に関する基礎知識、骨・関節・筋と動きに関する基礎知識とボディメカニクス、生命維持・恒常のしくみ、講義と演習を一体的に実施			
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間				イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間				イ 生活支援技術の講義・演習			
					通学	通信	合計				
	(4) 生活と家事			(4) 同左	2	3	5	(4) 生活と家事、家事援助に関する基礎知識と生活支援			
	(5) 快適な居住環境整備と介護			(5) 同左	0	4	4	(5) 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者のための居住環境整備、福祉用具に関する留意点と支援方法			
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(6) 同左	6	0	6	(6) 身じたくに関する基礎知識、身じたくの支援技術、講義と実技演習を実施			
	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(7) 同左	10	0	10	(7) 移動・移乗に関する基礎知識、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援、福祉用具の活用方法、講義と実技演習の実施			
	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(8) 同左	6	0	6	(8) 食事にに関する基礎知識、食事環境の整備と食事に関連した用具・食器の活用方法、食事形態とからだのしくみ、講義と実技演習を実施			
	(9) 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(9) 同左	6	0	6	(9) 入浴・清潔保持に関連した基礎知識、清潔保持の方法と福祉用具の活用、講義と実技演習を実施			
	(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(10) 同左	6	0	6	(10) 排泄に関する基礎知識、排泄環境の整備と関連する用具の活用方法、講義と実技演習を実施			
	(11) 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(11) 同左	6	0	6	(11) 休息・睡眠に関する基礎知識、睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法、講義と実技演習を実施			
	(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護			(12) 同左	2	0	2	(12) 人生の最終段階に関する基礎知識、生と死の支援、死に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援			
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)				(実習)※ 0 時間				(実習)※			
介護実習 ○時間											
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間											
在宅サービス提供現場見学 ○時間											
ウ 生活支援技術演習 10～12時間				ウ 生活支援技術演習 12 時間				ウ 生活支援技術演習			
					通学	通信	合計				
	(13) 介護過程の基礎的理解			(13) 同左	2	0	2	(13) 介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ、講義と実技演習を実施			
	(14) 総合生活支援技術演習			(14) 同左	10	0	10	(14) 演習を行うにあたり留意すること、事例をもとに検討し援助していく、講義と実技演習を実施			
10 振り返り 4 時間				10 振り返り 4 時間				10 振り返り			
					通学	通信	合計				
	(1) 振り返り			(1) 同左	3	0	3	(1) 根拠に基づく介護についての要点を再確認			
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修			(2) 同左	1	0	1	(2) 今後継続して学ぶべきこと、キャリアアップの確認			
追加カリキュラム 時間											
計 (130 時間)				計 (130 時間)							

※「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、1 2 時間以内とする。